

# 令和3年度 学校評価報告書

三田市立弥生小学校

## 1 学校教育目標

自ら学び たくましく 心豊かな弥生っ子の育成  
～やさしい子 よく学ぶ子 いつも元気な子～

## 2 今年度の学校重点目標

1 安心・安全な環境づくり 2 学力の向上 3 保護者・地域とともに

## 3 総合的な自己評価

校内授業研究を中心として推進することで、教職員の授業力・指導力の向上が図れた。また、小規模校の良さを生かした児童理解研修やケース会議を重ねることで、生徒指導や支援が必要な児童に対しての対応を共有することができ、組織的・機動的にチームとして取り組めた。

## 4 総合的な学校関係者評価

学校だよりや学校ホームページ、地域での子どもの姿や、地域行事への参加率、学校行事で参観させてもらった時の授業や掲示物で信頼され開かれた学校づくりをめざされていることが分かる。その育成の一役を地域も担っていると自負している。さらに、粘り強さを求める。

## 5 評価結果

| 自己評価                  |   |  | 学校関係者評価   |  |
|-----------------------|---|--|---|--|
| 分野・領域                 | 評価項目(取組内容)  | 評価結果及び分析   | 改善の方策   | 学校関係者評価委員会の意見  |
| 組織運営<br>・情報提供         | 学校教育目標、学年目標の実現をめざして、適切に教育活動に取り組んでいる。                    | 「よくできた」31%「できた」69%<br>『学校で楽しいな行事はあります』児童 92%<br>○コロナ禍で制限が多い中、創意と工夫で試行錯誤しながら目標実現をめざし、成果が見られた。   | ○善い行いや頑張っている姿を認め、その価値を広める。気になる態度を見逃さない。情報共有することで、全教職員同様の対応をめざす。<br>○教職員のさらなる授業力・指導力の向上  | ○ワクチン接種していない子どもが多い学校が苦労や工夫をされていることを理解し、感謝している。困ったことがあれば、地域でも協力するので相談してほしい。   |
|                       | 開かれた学校づくりを推進するために、学校の情報を積極的に保護者や地域に発信し、信頼関係の構築に取り組んでいる。 | 「よくできた」69%「できた」31%<br>『お子さんの様子がよく分かりますか』保護者 95%<br>○学校だよりやホームページの更新が増えた。<br>○例年通りの取り組みができない中、保護者や地域(弥生が丘自治会)と連携し、時期や内容を検討しながら推進することができた、 | ○今年度の年間計画を見直し、カリキュラムマネジメントの視点で次年度へ引き継ぐ体制を継続。<br>○学校ホームページ「きらり☆やよいっ子」継続。<br>○WITH コロナをふまえつつ、さらに学校・地域・保護者の連携を考え次年度の実施内容を検討。<br>○学校からの要望を地域へ発信し、協力を得る。 | ○学校と保護者、地域の連携で、子どもに地域の一員としての自覚が芽生え、ふるさとを愛する心の醸成につながっている。<br>○コロナ禍だが、マラソン記録会など地域の人々に子どもの姿を見てもらう工夫をお願いしたい。実現に向けて協力したい。   |
| 教育課程<br>・学習指導         | 学習指導要領および年間指導計画をもとに、各教科・領域における時数の確保ができ、適切に学習活動を進めている。   | 「よくできた」23%「できた」77%<br>『学校は地域や保護者との連携を大切にしながら、各教科・領域における時数の確保ができ、適切に学習活動を進めている。』保護者 97%<br>○学校行事の精選やオンライン朝会などの実施で増えた学習時間を有効に活用できた。        | ○OJT 研修を重ねながら、一人1端末活用を計画的に推進すると同時に、児童や保護者への情報モラル教育を実施する。<br>○今後も学校司書と担任などとの連携を図り、読書を楽しむ児童の育成をめざす。   | ○小学校での様々な体験は、成功しても失敗しても健全な心身の成長の糧となるので、学びの機会をできる限り提供したい。<br>○先の見通せない社会に生きる子どもに禁止ではなく、選択させ寄り添う教育を。                      |
|                       | 基礎・基本の定着をめざした、朝学習や学習タイム、放課後がんびりタイムの実施は、個に応じた工夫が見られる。    | 「よくできた」8%「できた」92%<br>『進んで宿題や調べ学習をしている』児童 83%、保護者 75%<br>○算数チャレンジタイムを継続的に行うことで、基礎的・基本的な知識技能の定着が図られている。                                    | ○iPad 活用方法を試行錯誤しながら、基礎的・基本的な知識技能の定着にとどまらず、個に応じた課題解決学習に向けて、個別最適化の学び推進<br>○児童が思考ツールや新聞活用することで、主体的で対話的な深い学びが得られる学習を重ねる。                                | ○今の子どもたちは、正解や答えが1つでない教育を受けていると聞いた。iPad 活用なども含め子どもの吸収力には驚かされることが多い。便利な道具に振り回されないで、使いこなせる子どもになってほしい。                     |
| 課題教育<br>(特別支援<br>・人権) | ユニバーサルデザインを活かした学習環境を一人一人の支援とした弥生スタンダードを全学年共有し改善を図っている。  | 「よくできた」23%「できた」77%<br>○弥生スタンダード授業が日常化されつつある。児童の学びが見える思考ツールを活用することで、ペアやグループでの意見交流が活発になっている。また、ミライシードを使って、学年を越えて意見交流できる機会を設定できた。           | ○児童理解の視点で、有効な支援や適切な評価、改善を図るケース会議を継続する。<br>○通常学級における合理的配慮や多様な学びの場の設定など、一人ひとりの良さや可能性を見だし、それを伸ばす「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的に充実させる。                          | ○登校班から遅れたり、家庭的な課題があったり、発達のスピードが違ったりする子どもがいるが、どの子も懸命に頑張っている。それを応援できる保護者や地域にしたい。○教科書やiPad の持ち帰りでランドセルが重くなるので、対応策を講じてほしい。 |
|                       | 全ての教育活動で人権教育の実践を行い、互いの違いを認め合い仲間を大切に学習を継続している。           | 「よくできた」8%「できた」92%<br>『人の話をよく聞き、自分の伝えたいことを言える』児童 90%、保護者 82%<br>『友だちと仲良くしている』児童 98%、保護者 99%<br>○困っている児童に寄り添える教職員をめざした。                    | ○「三田市人権を尊重し多様性を認め合う共生社会を目指す条例」施行にともない、教職員の人権意識の向上を図り、教育・啓発活動を推進する。<br>○授業公開の有無にかかわらず、道徳や人権教育、課題教育を系統的・計画的に実践する。                                     | ○自宅待機期間や登校不安だけでなくオンライン授業で対応してもらえると、学ぶ機会が保障され、学校や友だちとのつながりが実感できる。固定撮影や普段のまま構わないので、気軽に対応してほしい。                           |
| 生徒指導                  | 「いじめ防止基本方針」に則り、問題行動の初期対応から組織的に取り組んでいる。                  | 「よくできた」8%「できた」77%<br>『約束やきまりを守っている』児童 94%、保護者 93%<br>○いじめ対応チーム本部が機能している。   | ○今後も、週末ごとの児童記録を教職員で共有したり、問題行動に対しての初期対応や複数指導体制を確立したりすることで、未然防止や見守り体制の教化、早期解決につなげる。   | ○ほとんどの子どもは学校で言われたことを守ろうとする。子どもにとって、放課後の外遊びは、不要不急の外出になるのかどうか。各家庭で考えることが望ましい。  |